

## 北欧版『僕はやってない』

ジャーナリスト  
松本 侑壬子

身に覚えのないことで周囲から白眼視されたり、警察に逮捕されたりしたら、どうだろう。しかも、自分が誰に

何をされたのか、なぜ非難されるのかの情報がはつきりと与えられない中で、こんな目に遭ったら？ 今月は、平凡な日常生活の中で突然の災難に突き落とされた主人公の苦悩と絶望、そして明日へと生き延びるための孤独な闘いを描くデンマーク映画だ。国連の第一回世界幸福度調査(二〇一二年)で第一位というデンマークだが、そんな国でも、いや、だからこそ、この問題の深刻さと恐怖感は一ひしと身に迫る。

森と湖の美しい町に住むルーカスは四二歳。最近離婚し、一人息子マルクスには隔週の週末にしか会えない。しかも、勤めていた小学校が閉鎖になり失職、現在は幼稚園の教師の仕事にありついたところだ。とはいえ、近所には親友一家もいるし、趣味の狩猟の

仲間たちとのハンティングの楽しみもある。同僚の女性教師からの積極的なアタックもまんざらではない。

そんな時、事件は起きた。いや、本人は何も知らない。六歳の幼稚園児の嘘が、ルーカスを町中を敵に回すかのような立場に陥れた。親友の娘クララは、不仲の両親に代わって優しく面倒を見てくれるルーカスに幼い恋心を抱き、遊びの途中で唇にキスしたり、ハートの形のプレゼントを渡す。ルーカスがそれをやんわりとたしなめたことがクララの『女心を傷つける。幼女の復讐は、園長先生に「ルーカスがいやらしいことをした」と一言つぶやくことだった。大人たちの反応は、過剰なまでに深く広く町中に浸透していく。当のルーカスは蚊帳の外のみで…。

園長はルーカスに二日間の休暇を命じると、外部から人を呼んで調査を始める。クララは物々しい雰囲気

えながら、調査員の誘導的な質問に頷いてしまう。やっぱり！とルーカスの『犯行』に確信を得た園長は、警察に通報、保護者会を招集して他の子にも被害が及んでいないかを問いかける。たちまちルーカスは何人もの園児に『被害』を与えた『犯人』ということになり、猟友たちも親友テオですら、あからさまな敵意を向け始める。恋人ナディアまでも。

買い物に行つた先で店長に来店を断られ、衝撃を受けたまま警察に逮捕されるルーカス。目の前で父親が逮捕され、行き場のないマルクスはテオの家を訪ね、クララに「なぜ嘘をつく？」と詰め寄るが、大人たちに殴られ、外に放り出される。重大さに気づいたクララが実は、と事の真相を告白しても、もはやだれも耳を傾ける者はいない…。

大人も子どもも、一人一人の心理にまで光を当てて、微妙な感情の動きやズレが重なり、冤罪がつくり出されていく過程を仮借なく描き出す。法的には収まっても、いったん貼られたレッテルは容易にはがされることが、衝撃のラストシーンで思い知らされる。ルーカス役のミケルセンはカンヌ国際映画祭で主演男優賞を受賞した。

### 『偽りなき者』

デンマーク映画 (115分)

監督：トマス・ヴィンターベア

出演：マッツ・ミケルセン、トマス・ボー・ラーセン、  
アニカ・ヴィタコブ

公開中

© 2012 Zentropa Entertainments19 ApS and Zentropa International Sweden .

